MZプラットフォーム 企業での活用事例紹介

新規金型の製造工程における情報管理を効率化するシステム開発

株式会社小林製作所

2026年10月14日

一貫対応力を強みに金型製作を展開

株式会社小林製作所は、設計から製作・試作成形までを一貫して担う金型メーカーです。25名規模の現場で、海外協力工場を含む複雑な委託業務を管理するため、業務に合わせた情報基盤の整備に取り組みました。

所在地	岐阜県関市
設立	1989年
資本金	1,000万円
従業員数	25名
事業内容	プラスチック射出成形用金型の設計・製作・試作成形
対応分野	自動車・バイク・医療・美容・日用品
製作可能サイズ	30トンから1,600トン（成形機サイズ）

金型メーカーを取り巻く課題

検収・責任範囲・支払いに課題がありました

01 検収の不統一

企業ごとに検収段階が異なり、量産開始まで検収が遅れる場合がある。

02 責任範囲の曖昧さ

無償手直しや仕様変更の費用負担について、合意が不明確になりやすい。

03 海外委託の支払い先行

海外委託費、輸入費、関税・消費税の支払いが売上回収より先行する。

課題 ❶ 検収の遅れ

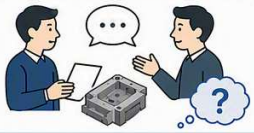
検収段階が企業ごとに異なり、「後検収」が発生

試作品提出時 → 立ち会いトライ時 → 量産立ち上がり時 → 検収

- どの段階を検収とするかが企業ごとに異なる
- 検収が遅れると売上計上も遅れる
- 資金繰りの見通しが立てにくくなる

課題 ❷ 責任範囲と仕様変更

口頭で進む仕様変更が、費用負担問題につながる



- 無償手直しの範囲が不明確
- 設計変更と金型不具合の切り分けが難しい
- 追加費用の合意が曖昧
- 検収時に費用負担をめぐる協議が発生

管理上の課題

「いつ、誰が、何を変更したか」を後から確認しにくい。

課題 ❸ 海外委託と資金繰り

支払いは先行するが、売上回収は後になる

時期	支払い・手続き
契約時	委託費の半金を前払い
輸入時	委託費の残金を前払い
通関時	関税・消費税等を支払い
検収時	売上を計上・回収

課題

支払い・輸入・検収の状況を、金型単位で把握する必要がありました。

支払い・輸入・検収の状況を、金型単位で把握する必要がありました。

従来の管理方法

情報が複数の媒体と担当者に分散していました

管理に使用していたもの

- 付箋・ノート
- Excel
- 会計システム
- 手書き帳票
- 担当者ごとの個別管理

発生していたムダ

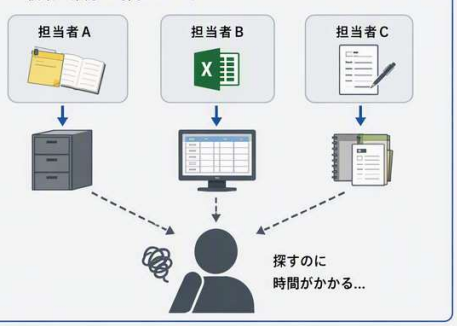
- 必要な情報を探すのに時間がかかる
- 管理者に確認を依頼する必要がある
- 転記・重複入力が発生する
- 手書きによる記入ミスが起こる

解決方針

必要な情報を、一つのデータベースに集約する

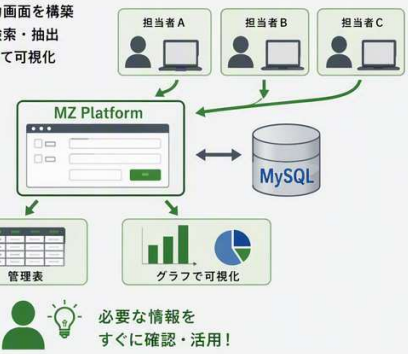
変更前

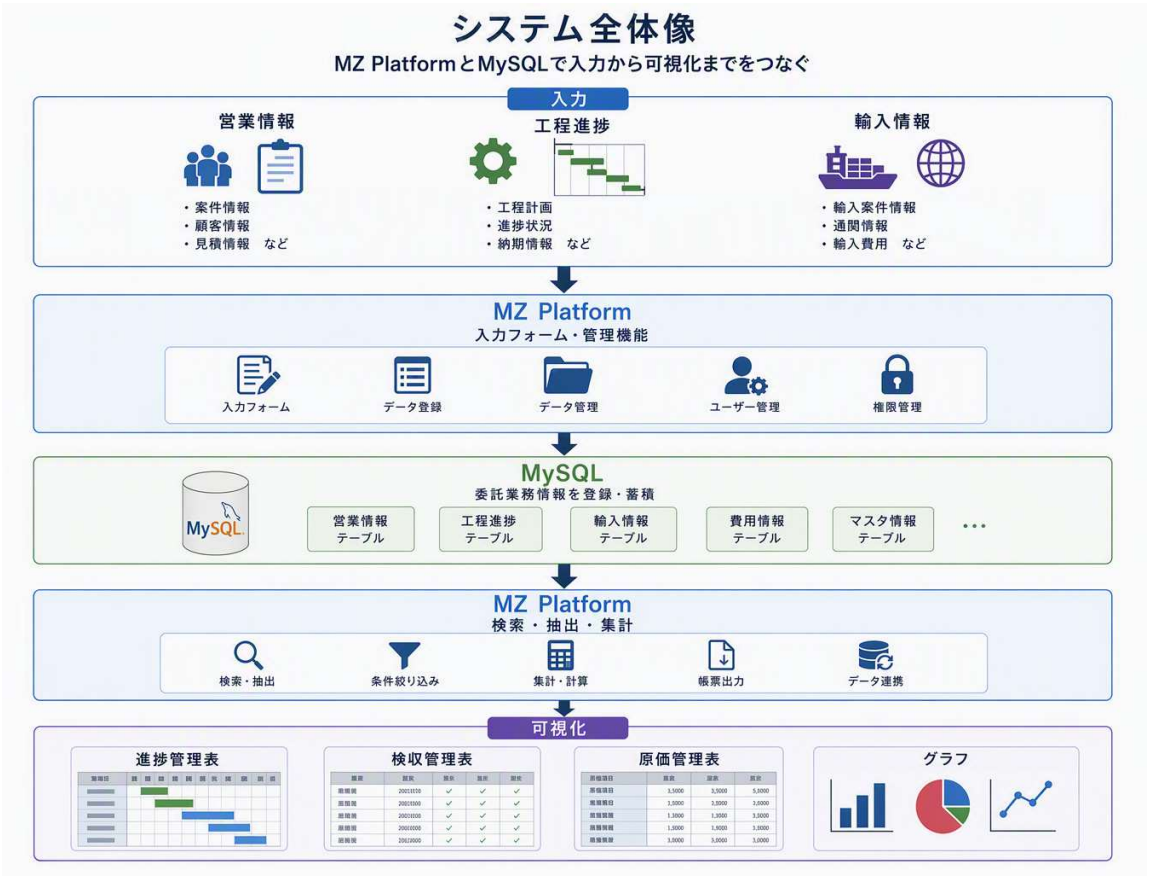
- 紙・ノートで個別管理
- Excelや会計システムに情報が分散
- 情報が担当者に閉じている
- 検索・確認に時間がかかる



変更後

- 各担当者が自分の端末から入力
- MySQLに情報を一元登録
- MZ Platformで入力画面を構築
- 必要な情報だけを検索・抽出
- 管理表やグラフとして可視化



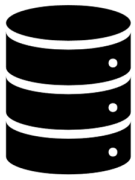


システム機能と、入力・管理のメリット

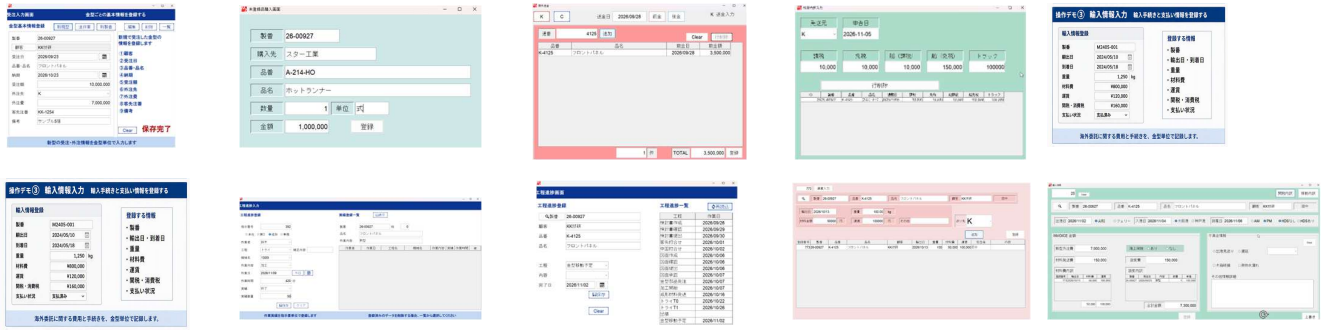
入力する人にも、管理する側にもメリットのある機能を搭載しています

機能	操作内容	入力する人にとってのメリット	管理する側のメリット
① カレンダー入力	日付欄をクリック ↓ カレンダーから選択 ↓ 登録	✓ 日付を手入力する負担・ミスを削減	✓ 日付形式が統一され、期間検索・並べ替えが容易
② 条件検索	製番・顧客名・担当者名・委託先などを選択して検索	✓ 必要な情報に早く到達	✓ 複数媒体の確認や担当者への問い合わせを削減
③ 作業内容リスト	作業内容を候補から選択 → 必要に応じて補足入力	✓ 書き方に迷わず入力	✓ 表記ゆれを防ぎ、検索・集計が容易
④ スマホ入力	スマートフォンから入力・登録	✓ 現場で入力可能	✓ 入力の遅れを抑え、リアルタイムに共有
⑤ バーコード入力	バーコードを読み取り → 対象情報を表示・登録	✓ 製番などの手入力を削減	✓ 入力ミスを抑え、対象金型を正確に特定





My SQLデータベースへ蓄積

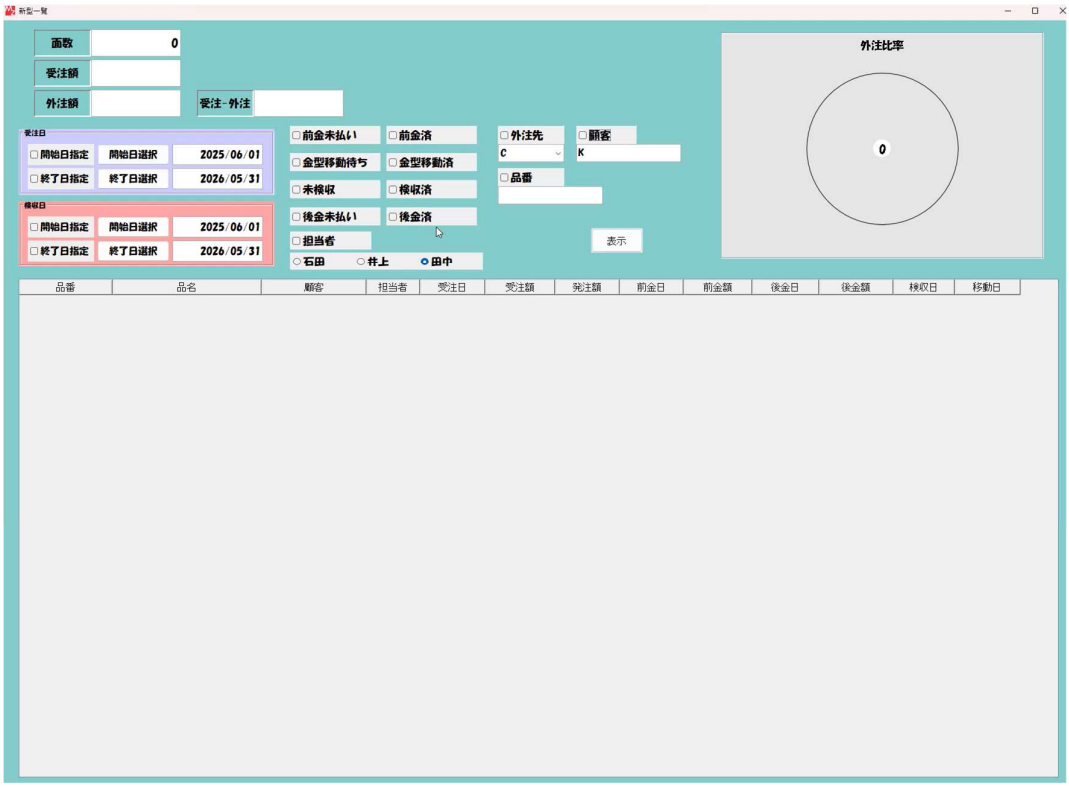


（システム入力画面）

デモ1　工程進捗入力画面



デモ2「誰かに聞く」から「自分で確認する」へ



デモ3　金型別の原価率や利益率を確認



内製化までの歩み

―― 外部支援を受けながら、段階的に内製化しました ――

時期	取り組み
2021年	ソフトピアジャパン依頼 （現場調査とヒアリングしてもらい課題を把握）
2022年	パッケージ版生産管理システムを導入
2024年 10月	講演会参加、ユーザー会登録
2024年 11月	3日間の講習会に参加
2024年 12月	講習資料を用いて自習
2025年 春	自社開発を本格始動
2025年 秋	テスト運用を開始
2026年 1月	システム運用を開始
2026年 5月	生産管理システムの運用を開始

苦労したこと

- 業務の標準化・見える化に時間がかかった
- 既存システムからのデータ移行や整備が大変だった
- プログラミングやシステム知識の習得に時間を要した
- 現場の理解や協力を得ることが難しかった
- 試行錯誤の連続で、思うように進まない時期もあった



導入効果

情報共有の**スピード**と、管理の**見通し**が改善しました



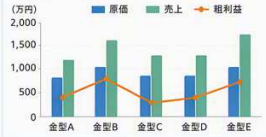
実現したこと

- 各端末から情報を即時に共有
- 手書き・重複作業・記入ミスを抑制
- 前金未払い・未検収案件を一覧で把握
- 金型別の原価と売上を確認
- 顧客別・委託先別・担当者別に分析

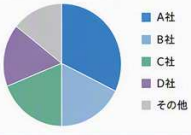
未払い・未検収案件一覧

案件番号	顧客名	金型名	前金未払い	未検収	状況
P-2024-001	A社	金型A-100	未払い	未検収	対応中
P-2024-002	B社	金型B-200	未払い	–	対応中
P-2024-003	C社	金型C-300	–	未検収	対応中
P-2024-004	D社	金型D-400	未払い	未検収	対応中

金型別 原価と売上



売上構成比（顧客別）



分析軸別サマリー

顧客別 売上		委託先別 売上		担当者別 売上	
A社	4,200万円	協力工場A	3,600万円	山田	3,250万円
B社	3,150万円	協力工場B	2,950万円	佐藤	2,980万円
C社	2,580万円	協力工場C	2,300万円	鈴木	2,450万円
その他	1,070万円	その他	1,150万円	田中	1,690万円

期待される効果

社員のコスト管理意識の向上



見える化により、コスト構造を正しく理解し、改善意識が高まります。

経営判断の迅速化



必要な情報をリアルタイムに把握でき、スピーディーな意思決定を支援します。

生産管理との連携



生産計画や進捗情報と連携し、より精度の高い管理を実現します。

始動中　運用と改良を重ね、生産・在庫管理へ発展させる運用

→ 現場の要望を収集
現場の声をヒアリングし、
使いやすさや改善点を把握

→ エラー・課題を改良
エラーや課題を分析し、
システムを改善・改良

→ 生産管理と連携
生産計画や進捗と連携し、
より精度の高い管理を実現

→ 在庫管理へ展開
在庫の見える化を進め、
効率的な在庫管理を実現

今後の取り組み

開発したシステムを現場で継続運用
日々の業務で使い続け、
定着と効果の最大化を図る

現場の要望や問題点を反映
現場の声をもとに、
継続的に改善と機能追加を実施

生産管理システムを改良
より使いやすく、
価値のあるシステムへ進化

まとめ　自社の課題に合わせた仕組みを、段階的に作る

1. 紙・Excel・個別管理による情報分散が課題だった
2. MySQLで情報を一元管理した
3. MZ Platformで入力・検索・可視化機能を内製化した
4. 入力から分析までを一つにつないだ
5. 外部支援を受けながら、現場に合わせて発展させた
（岐阜県産業技術総合センターの支援を受けて開発）

最後のメッセージ
高度なシステムを一度に導入するのではなく、
自社の困りごとから始め、**使いながら育てていく**ことが重要です。

ご清聴ありがとうございました